

令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡視覚特別支援学校 P T A					
学校	対 象	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	11人				

1. 使用状況

寄贈物品名	Dot PAD(点字ディスプレイ)
使用学年及び人数	小学部1,3,5年 7人
使用頻度	月に一度程度
使用状況	<p>◆小5全盲児童の次の学習で以下のように利用した。 (タブレットにBluetooth接続して利用。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の図形の学習『多角形の内角の和』や『体積』において、教科書やドリルの問題で使われている図形を、Dot PADでわかりやすく表示して触りながら学習した。 ・小5全盲児2人の図工で、自分なりの立体図形や絵画を、DotPADを利用して制作し、幾何学図形を描いたり、フリーハンドで自由に描いたりして楽しんだ。また、自分の作品をクラウドに保存し、お互いのDotPADに読み込むことで友達の作品を鑑賞することもできた。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・小5全盲児童の算数では、図形をDotPADで表示することで、点字教科書にない図形もリアルタイムに触れることができ、図形に関する理解が深まった。多角形の内角の和では、理解できることが楽しく、終わりのチャイムがなくてもやめようとしなかった。 ・図工の制作活動では、フリーハンドで描くだけでなく、物差しや段ボールで切った図形をなぞるなどして、正確な図形が描けたことを喜ぶ様子が見られた。また、友達の作品をDotPADで鑑賞できたことも、新鮮な喜びだったようである。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の図形や図工の作品作りだけでなく、社会科の地図や記号の学習、国旗の学習、国語の漢字の形の学習、理科の実験をシミュレーションすることなど、様々な分野での活用が可能だと考えている。
その他希望や所感など	<p>全盲の児童については、点字教科書の図などを触って学習することが多いが、そこにはない絵などはすぐに立体化することが難しく、学習をあきらめることもあった。DotPADの利用によって、そのうちの多くの分野で改善が見込まれるので大変有用な機器である。今後は、DotPADを扱える職員を増やすことが重要だと考えている。</p>

2. 活用の様子



・小学部5年の児童がDotPADを横に置き、接続したタブレットに指で自由に描いている様子。見えないため自分が描いた線はわからないが、横のDotPADに触れることで立体線として確認できるようになった。



・教師がタブレットに図形を描き、それを児童がDotPADに触れて確認している様子。教師が描く線がリアルタイムで立体の線として反映されるため、算数の図形の学習などで有効に使うことができる。



・男子児童がタブレットに描いた線がDotPADに立体線として表示されるため、女子児童がそれに触れて確認している様子。ふたりとも見えないが、DotPADを紹介することで情報共有ができています。